

刊夕 日十月四



定価 一冊五銭 月刊五拾銭 郵費五銭
発行所 常新日報社 東京市千代田区千代田三丁目五番地
電話 六三〇〇
印刷所 常新日報印刷株式会社 東京市千代田区千代田三丁目五番地

親とは

霜田 静志

子供の教育の問題について、今此處に述べる機会を得たことを嬉しく思ひます。子供の問題について、親の問題について私の考を述べて見ませう。

昭和九年八月の新聞に出て居た事であるが、私はその記事を読んで深く心を打たれた。それは親の言ふ事を耳かぬ放蕩息子の事件である。中學三年から不良の仲間に入り、家の金を取り出して使つてしまふ、最初は買食位であつたが、だん／＼その度がひどくなり、父親はその事を心配して病氣になり遂に死んでしまつた。その後母親の悩みは益々深くなつた。母親の甘いのを良い事にして息子は金

ノート

大東京の心臓とも云はれる東京驛では汽車、電車の發着回数が一日に千九回に及ぶその中汽車の發着が約百回
がないと、品物を持ち出して金に代へて飲代にして居

た。餘りの事に母親は我慢出来なくなり、自分が甘いからであるかと考へて、心を鬼にして勘當してしまつた。それから三月を経過したある晩、真夜中頃表の戸を叩く者があるので母が起きて見るとそれは息子で小遣を貰ひに来たのであつた。母は小遣を呉れてやる事が反つて息子の爲によくないと思ひ、戸を閉ぢて追ひ返してしまつた。息子は止むを得ずその儘歸つて行つた。遠ざかつて行く足音を聞いて居た母親はたまらなくなつて、再び戸を開けて見たが、最早姿は見えなくなつて居た。所が夜が明けて庭を見ると松の木に息子がぶらりとぶらさがつて居た。之が新聞の記事である。

母も子を良くし、子供も良くなりたと思つて居たのであるが、遂に此の様な悲惨な結果に陥つたのである。昔から子供は甘やかしてはならぬ。強く叱らねばならぬといふ様な古事が澤山ある。孟子の母は織を切つて子を戒め、中江藤樹も學問の途中母の事が心配になり、ひび、あかぎれの薬を買ひ求めて遠い雪の山道を家を歸つて來に所、母親は彼を叱りつけてその儘歸してしまつた。か様に迄な

常磐小藝

童 謡
春は水から
下田みやを

トロリ ホラ トロリ
鈍い お池の 照りかへし
ユラリ ホラ ユラリ
俺等の影が ゆれてゐる
サラリ ホラ サラリ
しだれ柳の 糸が たれ
スルリ ホラ スルリ
スワン 影から すべり出
し
ホワリ ホラ ホワリ
春は 水から 生れでる

自轉車は左記

有名車を御撰擇下さい
世界的ニ進出セル
◎宮田ノ自轉車
夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
◎ゼブラノ自轉車
實用經濟車トシテ好評アル
◎マーツ自轉車
◎マーツ號の好評をねたみ羊頭灼肉の策を用ひ偽物を販賣なし商標を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意様の御了計を得ん
宮田代理店 エビスヤ商店
ゼブラ代理店
マーツ代理店
電話 六六四

發賣開始!!!

今春の人氣を獨占する名盤
サクラ。平のサクラ音頭
素晴しい春の序曲
コンソアレコード
平よいとこ
磐城甚句
まづ御試聴下さい
御買求めは是非弊店へ
……各社レコード新譜續々入荷……
金光堂時計店
平五 電一九五

太乙膏

阿康藥舖
平町古鍛冶町一〇
電話四四番

◎御家庭薬として是非御用意下さい
熱い湯や火でヤケドなされた時直ぐツケますればヒブクレにならずなほります
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキレイに治ります。
キリ印
ヤケド キリキズ
クサド はたのアレ
シモヤケ あかぎれ
シモヤケ たぐれ
平町古鍛冶町一〇
専賣店



魚清食堂

春に花は必然です
そして酒あつての櫻です
然も酒は魚清の折詰によつて
百パーセント天の美緑となるです
御花見には是非御用命の程を
◎近日中みつ豆はじめます
平ニ警察署通り
魚清食堂
電話六三二

拜啓陳者井上茂作氏客年來破産
法事件ニ關シ審理中ノ處去月二十七日
宮城控訴院ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ爰
ニ全ク晴天白日ノ身ト相成候ニ付テハ
慶賀ニ堪ヘサル次第ニ有之候就テハ君
ノ爲メ左記ニ依リ雪冤慰安會致候間御
賛成ヲ得度此段御通知申上候 敬具

記
一、日時 昭和十年四月十一日午後一時
一、會場 平町聚樂館
一、會費 金五拾錢
昭和十年四月六日
發起人
青沼鋒太郎
野崎滿藏
諸橋久太郎
萩原義雄
佐々木龍若
坂本隆藏
關内正一
申込所 平町二丁目電話十六番 關内油店方

花雲りのけふ

勇士を偲んで

盛大な忠魂祭

既報石城在郷軍人聯合分會及び石城町村長支會の聯合主催に依る忠魂祭は本十日午前十時より松ヶ岡公園忠魂碑前に於いて神佛兩式に依り盛大に舉行された此の花曇りの天低くたれ第二師團長代理として福島師團司令官歩兵大佐眞山周二氏、四王天中將を初め郡下町村代表在郷軍人戦死者遺族・愛國婦人會員等千餘名參列藤田分會長の挨拶に始まり豫定の式次は厳裡に進行市内各學校生徒の參拜等あり午前十一時半終了したが眞山師團司令官の祭文左の如くである

愛に石城郡出身の戦死病没者諸士の爲忠魂祭を舉行せらるゝに方り謹みて

諸士の英靈に告ぐ回顧すれば諸士は既經戦後に於て銃後の力強き後援に依り具に辛酸を嘗め劍電彈雨の裡毅然として其任務を果し一死以て國難に殉す是を以て果次の征戰に連勝し克く曠古の大捷を博し皇威を中外に宣揚し國運隆々以て今日を致せり其忠勇義烈は炳として千古に朽ちずく實に後世の龜鑑たり今や帝國は非常時局に直面し舉國一致國難を打開せざるべからず此の秋に於いて親しく諸士の英靈を拜し追慕の念更に切なり庶幾くは護國の神として永へに靈光を垂れ給はんことを

皇國日本の進展と

建國の使命を遂行

けふ在郷軍人大會の決議

松ヶ岡公園の忠魂祭典に引續いて本日午後一時半より聚樂館に開催された日露戦捷三十周年記念大會は郡下在郷軍人五百名及び遺族等參會、藤田聯合分會長の開會の辭から國歌合唱、勳章捧讀、支部長訓示等あつて

帝國飛行協會の四王天中將の時局打開に關する講演が聴衆を感激せしめ終つて左記の如き宣言及び決議を可決、午後三時萬歳を三唱裡に衝天の意氣を示し閉會

時局益々重大にして正

是れ皇國興廢の岐るる處吾人は愈々其の責務の重大なるを自覺し皇國日本の進展と建國の大使命を遂行すべき國防の完備を透徹し以て國是を貫き誓て

聖慮を安んじ奉らむことを期す

決 議

一、吾人は時局の重大性に鑑み一層團結を鞏固にし益々軍人精神の作興を期す

二、國防の自主權を確立し公明正當なる新軍縮協定を實現し以て國防の恒久的安全の確保を期す

三、天皇機關説は世界に比類なき我國體の本義に悖り皇室の尊嚴を冒瀆し我等軍人の傳統的信念と絶對相容れず吾人は毫も斯る學説に累せらるゝことなく益々國憲を重んじ國體觀念を明徹にし盡忠報國以て其の本分に邁進せむことを期す

右決議す

吉報來に

大敷網勇躍

早くも大漁氣分

新潟漁夫既に二百名來郡

小名濱漁業組合の大敷網漁業は五月に入ると一齊に開始される等で各船主共出漁準備に大奮となつて居るが本年は過般出動した指導船警城丸の報告に依ると鯛ブリ等の來游が例年より豊富との吉報に各船主は新潟縣の熟練漁夫の雇入れに懸命で例年百名位の新潟漁夫が本年は既に二百名近く同町に入り込み早くも大漁氣分を見せて居ると

長に榮轉した穂積末男氏は東白河郡常豐村の人で大正八年三月本縣巡查を拜命、平署には昭和七年九月より勤務し其の間榑木前小名濱築港事務所長の不正事件及び郡下炭礦地帯の共産事件等の檢舉には常に第一線に起つて活躍し其の手腕は歴代署長の認むる處で今回の榮轉は當然と見られて居ると氏は語る

穂積部長

郡山に榮轉

今回の警察官第二次異動で平署から榮轉する二部長の内の一郡山署特高刑事部

霞田橋の

渡初め舉行

既報過般竣工した大野、大浦兩村境の霞田橋の竣工式の爲め兩村聯合の協賛會を

組織し本月十七日午前十時より關係者百餘名を招待して渡橋式並に竣工式を舉行午後一時からは大浦村長隆寺に於いて盛大な祝賀會を開くと

埋る小濱港

設計を變更し

防砂堤を増築

植田町小濱漁港改修は昭和八年以來十年度迄の縣營繼續事業として目下護岸工事

砂が押込まれて避難船の出入にさへ差支へるので縣では設計の變更を行つて防砂

電話賣度

(姓名 在 社)

中であるが同港は附近の小濱川及び潮流の關係から海上が時化になると港内に土

堤を増築する事に決定、目下來郡中の木村技師の手元で設計中である

大バスに

分乗して

大浦青年出發

大浦村大字仁井田青年分團は今日午前四時茨城縣方面に農事視察の爲大バス二臺に分乗出發した

日午後二時より平署會議室に於いて役員會を開き優良運轉手表彰及び縣下大會出席者の選定等に就いて打合せると

自動車役員會 石城自動車協會支部は來る十一

土木工事入札 平土木監督所は來る十三日午前十一時から同所内で渡邊村上釜戸地内縣道復舊工事及び植田町小濱地内海岸復舊工事等の入札を行ふ



印刷の御用は設備完全の「常磐毎日」へ電話六三〇

貧血馬の檢診 石城産馬組合の今井技手は本月十五日より十七日迄川前村

活版 印刷 見習生 二名採用す 年齢十五六歳 希望者は來談あれ

常磐毎日印刷株式會社 平町長橋町 電話六三〇

平町 人事

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雜誌が 自由に讀める

川崎 文庫 電六三〇番 (申込次規則書進呈)

津浪溺死の漁夫 白骨が續々現る

二百五十年前のもの 小名濱の埋立地から 浮かめぬ無縁佛

小名濱信用組合は去月廿六日から同町宇定西林ノ内地内一帯の砂地を宅地にする爲め埋立工事に着手したが着工して二日目の晝頃土砂を掘起して居た

人夫が 人間の白骨を掘起したが其後も同町附近から白骨が續々現はれ現在では十數ヶに達したが同所は墓地寺の無かつた事實に顧み不審を抱いて種々

調査した結果に依ると今から遠く二百五十年前

延寶五年十月小名濱附近を襲つた大海嘯と其後元祿九年六月廿七日の大出水の際溺死した漁夫の屍體を此處に合葬したものらしい事が判明したので信用組合長長瀬金右衛門氏は町役場、築港事務所、各區長等の後援を得て是等無縁佛の爲めに工費

千圓を投じて立派な記念碑を建立する事になつた

第二校の 平第二級長さん 小學校 第一學期正副級長は新任千葉校長の着任により今十日

- 左の如く任命式を行つた
- (三ノ一) 草野トシ子、海野和子(三ノ二) 猪狩敏子、海老根京子(三ノ三) 花澤久子、松本啓子(四ノ一) 磯貝シヅエ、清野俊子(四ノ二) 菅野榮子、中野静子(四ノ三) 正木田鶴子、太田二三子(五ノ一) 黒木智子、山野邊公子(五ノ二) 有賀貞子、廣一ユキ(五ノ三) 大嶺悦子、長瀬多美(六ノ一) 梅澤吉子、
 - 國井アキ(六ノ二) 木田秀子、三浦榮子(六ノ三) 酒井良子、坂本勝子(六ノ四) 櫻庭美代、村山佳子(高ノ一) 佐崎久子、小野寺マサ子(高ノ二) 杉山ツキノ、新妻ハル子(高ノ三) 川崎初子、大木アサ(高ノ四) 近藤シヅイ、小松崎ミツエ(高ノ二ノ二) 鈴木省子、大和田悦子(高ノ二ノ二) 栗田ケイ子、會澤ヨシ

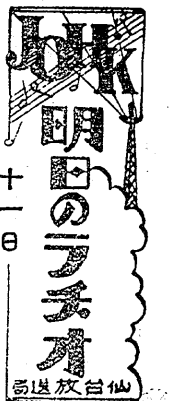
撮影班一行は...

キネマ界の高手

春の装をカメラに

昨報櫻花時の平町ニュースをカメラに納むべく東洋映画社の撮影班は高木喬氏の案内で昨九日午後九時卅二分平野着、今日の忠魂祭

武道大會 四王天中將の在郷軍人閱兵式及び日露戦捷三十周年記念軍人大會 實況等の撮影を開始した、一行のメンバーは總指揮清水徳太郎、撮影監督大澤恒夫、同技師鈴木京一、同事



今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
童謡と唱歌 福島附屬小
兒童 福島第四小學校
後六、二七 基礎英語講座
(二) 岡倉由三郎
後七、三〇 講演「學校放
送の實施に際して」中山
龍次

最高水準をゆく優秀
品であるため今回の平町に於ける作品は各方面から非常に期待されて居る尚、撮影フィルムは直ちに東京の本社へ急送スタイル其の他の製作を急ぎ今月下旬頃公開の運びに至る豫定である

春の宵を

御顧客慰安

平町二丁目なかや洋服店では御得意様慰安として一昨春大好評を博した日立リドバンド一行三十名を再び招聘する廿日(土)午後七時より聚楽館にて演奏會を開催するが春宵にこのチャンス平町音楽フアンの待望の的となつてゐる尚入場は一切無料申込み次第同店にて入場券を進呈すると

第二校の

創立記念

郊外遠足に

平第二小學校では明十一日の創立記念日にあたり左記の豫定地に向つて遠足を行ふ一年松ヶ岡公園 二年権現山 三年龍門寺 四年鎌田山 五年小島山 六年高坂坑見學 高一二年農事試験場

井上中將

警中で講演

警城中學校は来る十八日日本與國聯盟理事井上一次中

前六、三〇 基礎獨語講座
(二) 武内大造
前七、〇一 朝の修養、幼
學綱要「孝行 文學博士深
作安文」
前九、一〇 料理献立「魚
のソース漬け」朝倉長吉
前一〇、三〇 婦人講座
「春から夏への洋裁」(六)
春向婦人帽子の造り方
(一) 筒井光康
後〇、〇五 ジャズ コロ
ンビヤジャズバンド：木
曜コンサート：第二回
後二、〇〇 家庭講座「家
庭と作法」岡ハツ子
後六、〇〇 子供の時間
お話「聖徳太子」法隆寺

湯治客から盗む
磐崎村大字白鳥字勝立農岡部繁治(三)は去る八日午後三時頃同字の旅館礦泉宿春木屋事織田祐助方に入浴に掛け宿泊中の植田町本町石田長太郎(四)の室からクローム型腕時計一個(時價十八圓)の品を窃取した事發覺昨九日平署に檢舉された

入浴に出掛け

湯治客から盗む

平町二丁目なかや洋服店では御得意様慰安として一昨春大好評を博した日立リドバンド一行三十名を再び招聘する廿日(土)午後七時より聚楽館にて演奏會を開催するが春宵にこのチャンス平町音楽フアンの待望の的となつてゐる尚入場は一切無料申込み次第同店にて入場券を進呈すると

友人の

オーバーから

現金入り墓口

温本町字臺の山内田芳太郎方同居人宮城縣登米郡同米谷町生れ白岩正助(三)は去月廿七日午後六時頃友町八仙炭礦合宿所の友人齊藤某

兒童圖書鑑賞

平第二小學校では来月五日のX會主催小學校兒童作品展覽會の出品圖書を選定すべく来る二十二日校内兒童作品の講賞會を開く由

裁判たより
△石城郡小名濱町漁夫四家

執事長佐伯良謙
後六、二五 講演「學校放
送の聴取に就て」日本放
送協會常務理事中山龍次
後七、三〇 講演「帝國農
會の使命」帝國農會長伯
爵酒井忠正
後七、四〇 講演「本邦商
品の單純化に就て」臨時
産業合理局第一部長藤田
國之助
◎花の週間(第五夜)◎
後八、〇〇 清元「土佐繪
(上)」清元梅吉社中
後八、二五 漫才「花に浮
かれて」林田十郎
後八、四五 管絃樂 日本
放送交響樂團

平職業紹介所報告
回人を求める方
△子守 五十前後 月四五
圓
△女中 二十二才 尋卒
月十圓位
△店員 二十迄 尋卒 月
十圓位
△農夫 三十迄 月五六圓
△料理番 二十七才 高卒
△農夫 三十才 中二半退
△土工 三十八才 無學
△米穀店員 二十六才 高
三卒
△女中 四十才 尋卒

回人を求める方
△子守 五十前後 月四五
圓
△女中 二十二才 尋卒
月十圓位
△店員 二十迄 尋卒 月
十圓位
△農夫 三十迄 月五六圓
△料理番 二十七才 高卒
△農夫 三十才 中二半退
△土工 三十八才 無學
△米穀店員 二十六才 高
三卒
△女中 四十才 尋卒



明治太平記

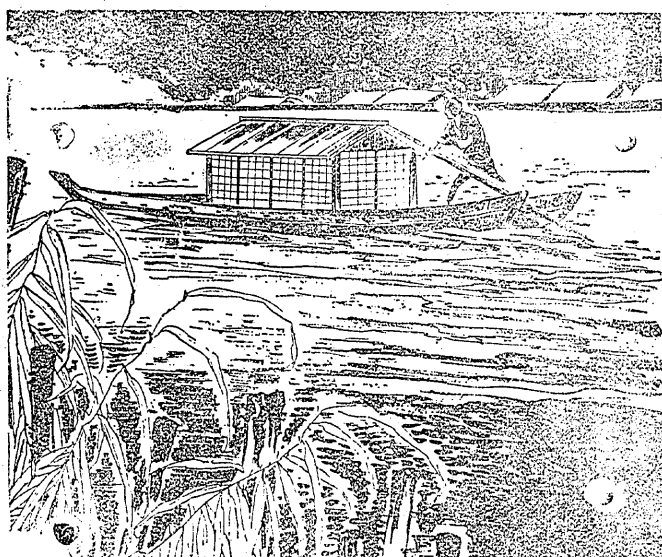
(上巻及上巻)

(作) 寺島征史
(畫) 野口 暉

第九十六回

間牒往來 (一)

やつつける。
朝鮮をやつける。
背後の群集も自制力を失ひ、無意識に叫んだ群集の内には小石を拾つて、關の中から巡察へ投げつけるものすらあつた。
わア！といふ、おそろしい叫びがあがつた附和雷同する制止されない民衆の壓力だ。
その間に、大久保を乗せた、二頭仕立ての華麗なお馬車は、白装束の亡者達から逃れていつた。
お馬車の中で大久保は街路に起る民衆の無自覺な叫びを聞いて眉をひそめいくたか呟いた。
おそろしい力だ。西郷、江藤の輩に恐れるおれではないが、あの多數をたのむ民衆の聲は、おれを打つ！……當面のおれの敵は民衆だ！



さむざむと川面の凍るほどな師走すゑの宵、敷寄屋河岸の、船宿稲屋から隅田川迄屋根船を出したものがあつた。
外務大丞の丸山作樂と

藩士の畑常世のふたり……何か要談があつて、大川へ出るのだらう。けれど、ふたりだけでは、かへつて人に怪しまれるとおもつてか、屋根の中には稲屋の女將をつれてくる。
ふたりは、河岸筋をとほ

る間だ、黙々と盃をふくみたり、およしだけ、三味線を弾かせてをつた。
が、やがて大川へ出てしまふと、ふたりはおよしの三味の音を伴奏のやうにして、そろ／＼語りあふのだつた。
「畑君、どうぢや、京都」
「外山光輔卿を、め、矢田穩

方の様子は……」
丸山はいふと畑とよばれる青年は、じろりとおよしの方をみた。
「女將か……いや、この女子は安心のできる奴だよ、米澤の志士、雲井龍雄の情婦だよ」
「あら」
襟足の白さをみせてをつたおよしは、顔をあげて、うれしい表情をみせた。
「あ、さうか、雲井のいろなら我黨だらう。さうか……だが船頭がちよいと邪魔だよ」
畑はあくまでも用心ぶか

清齋、同じく隆男、三宅瓦全、立石正介、妹尾三郎兵衛、中謙一郎、的野秀九郎、田淵敬二、此顔觸れが幹部と相成つて、近畿、北陸の方面の同志をあつめてをります」
「うむ、久留米は？」
「久留米では、大參事水野正名殿を中心といまして、權大參事吉田博文、小參事鶴飼廣登、小河真文、寺崎三失吉、土田要藏、中村彦次、横枕覺助等、血氣の士が糾合いたし、東京表の様子や如何にと手具腥引いてをります」
「その他の藩では？」
「熊本にては、熊本藩鶴崎有終館總督高田源兵衛、木村弦雄等が中心、柳川にては柳川藩大巡察古賀十郎、廣田彦磨、豊津にては豊津藩大參事志津野拙之、小參事河合小藤太、二澤一夫等午間にては岡藩士小參事多知賀八郎、大巡察赤座彌太郎……さらに……」

喜多流 平岡韻
電話 624

喜多流 喜多流 白土會
電話 一二七番

募集廣告
演藝館係り若者若干名
舞踊家志望の女子(十四才以上)
右急募
希望者は博覽會事務所にて面會

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町一六(電話一七〇番)

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

大工賃銀に就き
當組合の大工賃銀は從來不統一の所今般組合の決議に基き四月十日より金一圓五十錢を嚴守する事に確定致し候段謹告仕候
四月九日
平町大工組合

春の洋服。レンコートは信用堂へ!!!
背廣服(三ツ揃) 拾一圓より
レンコート 四圓より
バ、リ、二圓二十錢より
トレンチー 三圓より
女學 生用 五圓より
レンコート 五圓より
○一日丁三町平
店服洋堂用信
外に春物小供服など豊富に取揃へてありますから御散歩がてら店へ御覽下さい……